

医苑対談シリーズ

宮崎県都城市長

池田 宜永 氏の巻

(平成二十六年九月二日収録)



第 36 回

矢野…今日は市長さんのいろいろなお話を伺うんですが、硬い市政のことは横に置いておきまして、申し訳ありませんけれども…。その他のことをいろいろとお教えいただければと。趣味から何からですね、お聞かせ願えればと思います。

池田…わかりました。

矢野…短い時間ですけれども、よろしくお願いいたします。

出身は東小と妻ヶ丘中ですね。

池田…はい、そうです。

矢野…ご実家はどこなんですか？

池田…実家は菖蒲原あやめぼるですね。

矢野…今もそこ？

池田…今もずっとです。

矢野…ご自身？

池田…私は今、若葉町に住んでいます。都城で生まれたんですけど、父がもともと専売公社（現在はJT）におりまして、南九州とか大隅半島を動いていましたので、生まれた後、鹿屋市や根占町に住んでいましたね。

矢野…もうリタイヤして…。最後はどこだったんですか？

池 田…えっと、最後はどこにいましたかね、父は…。小林あたりじゃなかったかなと思います。

榎 原…南九州をずっと？

池 田…そうですね。父は現場をずっとやっていたので。私は幼稚園ぐらいに都城に戻ってきて。それ以降はずっと高校まで都城だったの。

武 田…消防局があるところですよ。

池 田…あの辺が菖蒲原なんですけど、うちの実家は消防局の近くですね。

榎 原…市長さんの髪型が非常に特徴的だと思うんですけども。

池 田…そうですね？

榎 原…ずっと以前からその髪型なんですか？

池 田…そうですね。いつも短くしています。

武 田…さて、高校は泉ヶ丘ですよ。

池 田…はい、そうです。

武 田…私はちょっと義友会の資料を見てみましたが、市役所にもだいぶん同窓生がいらっしゃるんですね。

池 田…同級生は多いですね。何人いますかね…。二十人ぐらいいるんじゃないでしょうかね。ちょうど我々が第二ベビーブーム、団塊ジュニア世

代なので、子どもが多い世代で、高校は十クラスありましたし、たぶん四百四十人ぐらい同級生がいたはずですね。

武 田…特別多いんですよ。

池 田…多い時代ですね。

武 田…ちょうど三十年違うんですよ(笑)。

池 田…私は四十二回卒じゃないですかね。

武 田…私は十二回卒なもんだから。

榎 原…武田先生は十二回卒ですか。

矢 野…九大に進まれたのは何人ぐらいいたんですか？

池 田…何人いましたでしょうか…。七、八人じゃなかったでしょうかね…。ちょっとあまり記憶が…。たぶんそのぐらいだったと思います。

武 田…その時代では優秀ですね。

矢 野…高校時代は何を？

池 田…私は小学校から高校まで野球です。十年やりましたね。

矢 野…今はもう全然やらないですか？

池 田…野球はもう全くやっていないですね。

榎 原…野球は人が揃わないとなかなかできないですよ。

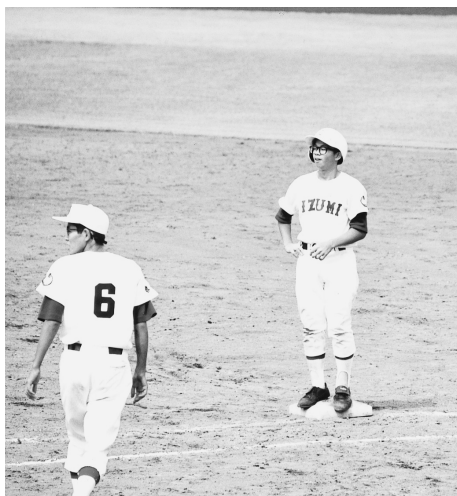


妻ヶ丘中学校3年

池 田…そうですね。ただ、高校まで野球をやった、その後も大学とかですと運動はやっていましたね、テニスやったり。今もテニスは少しやりますけど、あとスキーやったりとか。社会人も後半ぐらいというか、ここ十年ぐらい前にゴルフを始めて、それこそ市長選に出馬するという直前まではやっていました。それ以降は一切やっていない。もう全く触ってもいいですね。

榎 原…じゃ、もう殆んどスポーツは今出来ない？

池 田…やりたいんですけども、なかなかですね…。ちょっとやれない。いけないんですけどね、やっぱり時間を見つけてやらないといけないと思うんですけども、なかなかですね。ゴルフの練習場に行きたいなと。前は息子とよく行っていた



都城泉ヶ丘高校 3 年

んですよ。副市長の時とか行っていたんですけど、今の立場になって練習場に行ってもいろいろ言われるかなと(笑)。

久保田：顔がバレバレですからね。

武田：健康のことを言えばいいんですよ。でも、遊んでると思われるんですよ。

池田：ゴルフはちょっと特別ですよ。

久保田：ゴルフはあまり健康に良くないかもしれないですね(笑)。

池田：ゴルフだけはちょっと特殊なスポーツですけど、昔の接待的なこととか、日本の世の中が作り上げたイメージがあって、どうしても…。た

ぶん、テニスをやっているても何も言われないし、ランニングをしても何も言われないんですけど、ゴルフ場にいると何か言われそうなの、何かそういうものがあって、非常に躊躇するところがあってですね(笑)。安倍総理はあれだけ一生懸命ゴルフをやられているので、だいぶんやりやすいんですが、これも今の総理だから世の中静かなのかなと思いがらですね(笑)。

久保田：夏休みとかあるんですか？

池田：夏休みは、一応お盆の時にはちょっと休みを貰いました。その時に貰わないと、普段なかなか土・日もない時が多いので、盆と正月だけは一応何日か貰うようにはしています。

矢野：市役所にもテニス部とがありますよね。

池田：あるみたいです。五十市のイワキリさんで土曜日の朝やっていると話は聞いているんですけども。隣の三股町長もテニスをされているみたいです。いつか町長と二人でやりましょうかと言ってですね(笑)。

矢野：三股の町長さんはされるんですか？

池田：今もされているみたいです。

榎原：矢野先生もテニスしていますよね。

矢野：だから市役所の人たちが結構団体で来ているから。

榎原：テニスをする人はやっぱり太らないよね。

武田：医師会もテニス部がありますからね、矢野先生筆頭に。

池田：結構いらっしゃいますね。

榎原：テニスは二人揃えば出来るから。

池田：そうですね。比較的やりやすいし、何かあってもすぐに動けるといいますね。その意味でもテニスはいいし。この前のゴールデンウィークの時には、久しぶりにうちの息子とテニスをやりました。久しぶりに体を動かしかったです(笑)。

矢野：いいですね、テニスは。

池田：うちの家内もテニスをやっていましたし、私もやっていて、いつかみんなでやればいいなと思っています(笑)。

矢野：ちょっと旅行でホテルなんかに行ってもテニスコートがあるところに行けば、家族でやれますよね。

武田：軟式なんですか？

池田：硬式ですね。運動をしたいという思いもあるんですが、なかなかそこが儘ならないのがい

けないなあと思いがらですね…。

矢野：健康診断で引っかけりませんか？

池田：今のところはですね(笑)。この間、それこそ夏にやってもらったんですけども、なんとか大丈夫そう感じたので。

榎原：市長さんの体型だったら、たぶん殆んど何も引っかけらないでしょう。

池田：いや、そんなこともないんですけど、ちょっと一部、基準値を超えているのがいくつかありましたが、全体としては大丈夫でしょうという感じでした。

武田：目が疲れるとか、耳が疲れるとか、そういうのがおこるかもしれないですね。体型的には血液なんか一〇〇%いいんじゃないかな。

池田：どうですかね…。私はもともとアルコールが強いわけじゃないので、そんな飲む量が多いわけじゃないですけど、飲む機会が多いので、その辺はあまり飲み過ぎないようにしていますけどね。

矢野：お子さんは何かしていますか？

池田：上が五年生で男の子なんですけど、下の娘はまだ二歳。

矢野：まだ二歳ですか？

池田：なので、上と九つ違うんですね。

矢野：なら、けんかもないですね。

池田：けんかと言うのはないですね。

福島：でも、かわいい盛りでなかなか一緒に遊べないんじゃないですか？



産まれたばかりの娘と(平成24年4月)

池田：そうですね、なかなかですね。起きてる時間に帰れると、ちょっと会えたりしますけど。

それこそ朝と夜にちょこちょこという感じが多いですかね。

榎原：お風呂入れとかほとんど…。長男さんの時もほとんど入れてなかったんじゃないですか？

池田：長男の時はまだ市長になる前だったのでやっている…。ただ、東京で働いている時は忙し

かった…。遅かったからですね。大体夜中帰宅ばかりだったので、そう考えると確かにあまり貢献していないかなと思いが…。いけないですね。

矢野：気になったんですけど、この金融庁監督局銀行第一課課長補佐というのは、『半沢直樹』のあの立場なんですかね。

池田：あれは、検査局検査官ですね。愛之助さんがやったやつは検査と言ってますね…。

矢野：検査課というのがあるんですか？

池田：検査局というのがありまして、金融庁は三つの局があって、総務企画局、監督局と検査局というのがありますが、愛之助さんがやったのは検査局の検査官ということで、実際銀行に行って検査をするメンバー。監督局というのは、通常の銀行のモニタリングであるとか基本やっているのですが、実際銀行に入っていくのは検査局ということ、実動部隊が検査局。検査の結果を受けて、どういうふうな指導・監督していくかというのが監督局で決めるということで、通常は銀行と対峙しているのは監督局なんです。

矢野：処分みたいなのをするのは監督局？

池 田：はい、そうです。例えば、行政処分をやるのは監督局ですね。私がいた銀行第一課というのは主要銀行の監督をやっていたので、要は今の三井住友であるとか、みずほであるとか、三菱東京UFJとか、そういう所が対象になっています。

矢 野：何かありました、この頃。

池 田：私がいた時は、たぶん皆さん方が一番記憶にある時代で、結構ひどい二年間だったですけど、りそな銀行が破綻した時です。りそな、足利銀行が破綻したというのがありました、あの時です。もう大変でした。小泉総理の時だったので、金融担当大臣は竹中平蔵さんです。金融界がひどい状況だった時ですね。ちょうど不良債権比率が八割ぐらいあって、これを半減するんだといって、ものすごく引き締めがあった時ですね。かなり厳しい時代にいましたね。

矢 野：全然家にも帰れなかったんじゃないですか？

池 田：その日に帰るといえるのはなかなかなくてですね、金融庁に限らず中央官庁はですね。どうしても夜は遅いので。特に国会が開いている時はだいたいそんな感じですね。

福 島：待機じゃなくて資料作り？

池 田：資料作りもそうですし、待機もかかりますし、国会対応が一番最優先でやらなきゃいけない仕事なので。今はまだ開いていないですけど、今月末ぐらいから臨時国会が開くと、予算編成と国会対応と被るのもう大変です。

植 原：寝られないような日が続くわけでしょう。

池 田：そうですね。財務省主計局の農林係というところで主査というのをやっていたんですけど、ちょうどその時、東日本大震災の時なんですけど、あの時に予算の担当をやっていて、農林担当で水産庁と林野庁の担当だったんです。東北の漁港は全部やられてしまったので、もうその時は今までで一番忙しかったですね、当然ながら。もう全く家に帰れなかったですね。

なんとか二十三年度予算が年末に出来て、国会審議が年明けなんですそこからやっていた最中に、東日本大震災が起こったんですね。そこから全て震災対応でした。

植 原：その予算作りの大変さとかは、私たちにちょっと理解の外だと思うんですね。

久保田：例えば港湾の工事をする元の値段という

のはあるんですか？

池 田：それは例えば水産庁とかがきちんと精査して出してくるので、それを我々が査定するということですよ。

久保田：その値段が適正かどうかというのは、どういう判断があるんですか？

池 田：予算は基本積み上げなので、要は単価に量があって全体の額が決まる。それを積み上げるというのが予算の形ですので、単価と量が適正かどうかをきちんと議論しますね。

久保田：医療器械の値段ってあってないような値段がよくあるんです。だから、知らない人間はすごく高く取られるし、その見極めつてものすごく難しいし、それに量が膨大なわけでしょう。

池 田：そうですね。ですから、一個一個積み上げるんですけど、その単価の決め方とかは適切じゃなければ当然単価を削らないといけないし、量についても本当にそれが適正な量なのかということを見ていきます。そこは相手省庁とやりとりがあるんですけど、三、四ヶ月はずっと議論をやっていますね、朝から夜中まで。

久保田：それってものすごく大変そうですね。

池 田…大変ですね。

榎 原…何歳ぐらいまでその仕事が続けられるでしょうかね？医者もですね、当直って寝ないで次の日も診療があるんですけど、私開業する前、もう続けられないと思っていたんですよ。三十九歳で開業したんですけど、若い頃はそれこそ何日も大病院に泊り込んでとありましたけど、開業する頃はだんだん家に早く帰ろう帰ろうって…(笑)。

池 田…それは役所もそういうところがありまして、さっき言った私の立場、主査という立場が一番忙しいピークかもしれないですね。ま、三代…四十を超えてくると、ある程度、管理職的な立場になってきますので、そんな夜中までいる時もあるれば、早く帰っていく時もある。三代まではかなりハードな生活を強いられることもありますね。そういう意味では、今先生がおっしゃったのと近いかもしれないですね。今、私四十三才ですけど、今やれと言われたらやっぱりしんどいかもしれないですね。さすがにきつくなってくるかなと。

榎 原…違う生活を何年かしてしまおうと、また元に戻れと言われてもですね。

武 田…医者は三十代だったら教授からいじめら

れるけどね(笑)。

榎 原…それは役所もあるんじゃないですか？

池 田…でもそういう意味では、どこの組織も多かれ少なかれ四十ぐらいまでは苦労して…みたいな世界はあるのかもしれないですね。私は苦労というか、そういう生活を経験した人というのは、どの分野でも強いのかなと思うんですけどね。

榎 原…それを経てもいけないとね…。

池 田…今はなかなか経ていけないというか、経ることを許されないというか、そういう風潮もありますけど。

榎 原…ちょっと話が変わりますが、野球をずっとなさっていて、大学時代は特にクラブには属さなかったんですか？

池 田…テニスをやっていました。

榎 原…クラブとして？

池 田…サークルに所属してやってましたね。私とは何かやり始めると、とことんやりたいタイプで、テニスを始めたらテニスばかりやっていましたね。

榎 原…大蔵省に入られてからもテニスは続けら



大学時代はテニスに熱中！

れていたんですか？

池 田…個人的にはやっていましたね、仲間たちとですね。土曜日とか休みの時にやっていましたね。

武 田…オーストラリアはいかがでしたか？

池 田…オーストラリアの日本大使館に勤務していました。

武 田…南半球ですね。

池 田…季節が逆なので、今、冬が終わろうとし

ているんじゃないですかね。あっちは今からどんだん暖かくなってくるんだと思うんですけど。首都のキャンベラにいたんですけど、オーストラリアと言えばシドニーとかメルボルンとか大きい都市がありますが、キャンベラは人口三十万ぐらいしかいないんです。宮崎市よりも少ない人口なんですけど、本当に自然豊かでとてもいいところでしたね。オーストラリアの日本大使館で仕事をさせていただいて、普段の財務省とは違う環境ですし、外務省とか外交を多少経験することが出来たのかなという気がしますね。

矢野…これは出向ということですか？

池田…出向ですね。

矢野…この頃結婚されたんですか？

池田…結婚はその前ですね。

矢野…金融庁におられた頃？

池田…金融庁の前ぐらいに結婚していますね。

平成十三年に結婚しています。

久保田…大使館に財務省からの出向ってあるんですか？

池田…結構あります。実は大使館って各省の出向者が多くて、私がいた大使館の場合は半分は外



オーストラリア政府の同僚たちと！

務省の職員、半分は出向者でしたね。やっぱり専門分野がそれぞれあって、そういう意味では縦割りと言えば縦割りなんですけど。いろいろな班が別れているんですけど、私は経済班というところに入っているんですが、それぞれ相手の国の各役所があるじゃないですか。私は財務省なので、向こうの財務省の仕事であるとか、予算関係をやっていての、厚生労働省から人がいなかったたのでその部分

を担当するとか、それぞれの専門分野をまず担当し、かつそれ以外をそれぞれ分担して担当するということになっていました。

久保田…そうですね。考えたら外務省だけじゃそういうのは出来ないですよ。

池田…いいか悪いか縦割りのところがあって、中規模以上の大使館は、各省からの出向者がいると思います。

榎原…逆に外務省の人も他の省庁に出向があるんですか？

池田…各省間の出向は多いですね。特に今回、内閣人事局が出来たので、今後また更に増えるんじゃないでしょうかね。警察庁の方が金融庁にいたりとか。私の同期は、二、三年前は県警の警務部長に行っていましたからね、財務省から。行った来たりというか、人事交流はありますね。

武田…厚労省は特殊だと思っていたけどそうでもないんだね。

池田…厚労省もけっこう行っていると思いますね。

榎原…他の省に行って、そのところを経験して勉強して帰ってこられると、それは後で役に立

つというか活きるわけですよ？

池田…まず、内容も当然、そういうことを知ることというのでいいと思いますし、人を知ることが大きいかなと思いますね。私が今この仕事をしていて、一番大きいのはそれです。東京に行って普通に話せると。財務省へ行ったら普通に入れますし、そういう意味では、ありがたいです。また、農水省は先ほど言いましたように予算査定をやっていましたから、一応知ってもらっていますし。

榎原…財務省なら自分の担当省庁があるんでしょけど、全ての省庁と接触するわけですからね。

池田…そういう意味では、役所の特質上、全ての情報が集まる場所でもありますし、例えば私は直接的に農水省を担当していたり、さっき言った大使館で各省の方々が来ているじゃないですか。そういう人たちとずっと仕事をしているので、今その人たちがいるところ、例えばこの間、都城市に国交省から部長を派遣してほしいという時にも、たまたまですけど東京の人事担当者が、私がオーストラリアにいた時の人だったので、話がしやすいとか聞いてくれたりとかですね。そこは有り難い

いですよね。

もう一つあるのは、これは独特なんでしょうけど、霞ヶ関という所に各省庁が集まっているんですけど、各省庁は当然独立していますが、一方で、霞ヶ関村みたいな意識があるんですよ。私は財務省ですけど、他の役所に行っても「あ、財務省出身だったんですね」みたいなことで親近感を感じてもらえるとかですね。妙に村意識があるんですよ。だから霞ヶ関に行く時は大変有り難いですよ。

途中の行き付くまでのプロセスがないので、先生がおっしゃったように、財務省は各省庁の予算をやるので、今大体予算をしている主計官とか課長クラスというのは、大体私がお仕えたような人たちなので、例えばその役所に話しに行きたいという時は、直接行ってもいいんですけど、そこに行って「一本電話を入れてもらえませんか」と言うだけで全然違うんですよ。人間ですから、みんな突然来ると警戒して、誰でもそうだと思うんですね。ただ、先生方でも「ちょっと知り合いが行くからよろしく」と言うのと全然違います。それと一緒に。話が通るかどうかは別にして、話

は絶対に聞いてもらえます。話を聞いてもらうことすら出来ないということも多々ある中では、とにかく話を聞いてもらう世界までは程なく行きますので、そういう意味では有り難いですね。

さっき先生がおっしゃったように、中身を学ぶということも大事だし、他の役所の空気を吸うというのも大事だと思いますけど、人を知る機会が多いというのはいいのかなと思いますね。

榎原…外務省に三年？

池田…そうですね、大使館には約三年いました。

榎原…そのまま例えば霞ヶ関にずっと残られたとすると、その後もまた出向で他の省庁に行くということは…。

池田…それは個人で違いますけど、それはあると思います。

榎原…医者の世界も、そういうのがあったほうが人によってはいいいんじゃないかと思って。医者の世界は、最初は二年間ぐらい内科とか外科とか基本的な科を回るんですよ。あとどこかに入ると、私たちの頃は殆んど大学の医局でしたけど、もうずっとそこなんですよ。どこかの病院に勤める、あるいは開業する、とかで殆んどずっとそこ。せ

いぜい留学しても一年とか、外国に行かれる先生もいますけど、私は形成外科に北海道に一年行ったことがありますけど。例えば七、八年経って十年経って自分に元気があれば、また関係のある科に行って勉強して、二年して帰って来て、また人脈も作って帰って来て、そういうのがあるといいのかなと。

武 田：昔は外科、内科とか小児科とかですけど、今は外科という言葉は使わないですよ。内科も使わないし。

矢 野：消化器外科とかそういう言い方ですね。

武 田：そうすると、割と流動性があっていいんじゃないかと。インターンの時だけあちこちあちこち行って、あとはオンリーにずっといくというのは榎原先生がおっしゃったのと同じで、もうだんだん変わっていくんじゃないかな。

榎 原：今、その話を聞いて、自分の事に置き換えて、医者の世界じゃ無理かなとか考えて…。

武 田：先生の世界とするとちょっとやっぱり流動性がないんでしょうね。

池 田：内閣人事局でいうと、計画的に他の役所に二回とか三回は出るようなルールが出来たみた

いなことをこの間新聞に書いていたので。でもいろんな経験をするという意味ではいいのかなとは思いますがね。役所によって全然文化が違うので。

榎 原：大学卒業で大蔵省に入られる時は、希望で大体自分の望む省庁に行けるんですか？

池 田：いや、試験を受けて、あと面接等々、省庁訪問というのをやるんですけど、いろんな省庁を回る中で、希望する省庁に採用されるかどうかということですけど、今と私の時代ではちょっとルールが変わっているみたいですけど、全部回たくても時間的な制約もあるので、ある程度幾つかに絞って行きたい省庁を回るとい世界ですね。

矢 野：オーストラリア大使館にはこの頃、大体何人ぐらい：現地採用じゃなくてこっちから…。

池 田：日本からの職員…、大体二十五人ぐらいでしょう。

矢 野：その中でこの一等書記官というのは何人なんですか？

池 田：何人でしょうかね…、一等書記官以上も実はいて、大使がいて、筆頭公使と次席公使と二人いて、その後には年次に応じて位が幾つかあ



大蔵省から財務省へ(平成13年1月)

て参事官という人がいたり、参事官の次が一等書記官、二等書記官、三等書記官とそこまですけど。出向者がみんな大体一等書記官くらいで来るので十人ぐらいはいたかもしれないですね。二等書記官が五、六人、三等書記官はもうちょっと少ないとか。

久保田：なんか大使館員で良かったなとかあります？

池 田：昔は色々あったらしいですが、私が行った時代は特権的なことはあまりなかったと思います。

矢 野：税関はフリーパスじゃないんですか？

池 田：税関は昔は本当にフリーパスだったみたいですが、私のころは完全フリーパスではないで

すけど、レインはありましたね、別レインが。お客さんがいっぱい並んでいる所じゃなくて、横を通って行けるとか、それぐらいはありましたけど、完全フリーパスではなくてチェックを受けながらですけど。

久保田：パスポートなんか違うんですか？

池田：パスポートは違います。パスポートは色が違います。

福島：グリーン？

池田：茶色です。

久保田：茶色？

池田：私、実は過去に取得したパスポートを四色持っているんですけど。通常の赤の十年、今もあるのかな：五年の紺というのがあって：。今もあるんですかね？

福島：僕、もう切れちゃったけど、紺持っています。

池田：ありましたよね。昔は五年というのがあって、私当然その二つは持っているんですけど。今先生がおっしゃった緑というのは、国家公務員が出張に行く時とかに持たされるのがあって、それがグリーンなんです。もう一つ、大使館員、すな

わち外交官という職責で行くと茶色というのがあってですね。なかなか四種類持っている人間はあまりいないかもしれないですけど、見るとけっこうおもしろいんです。

久保田：ワインがいっぱいあったとかいうニュースがあったじゃないですか(笑)。

池田：大使の公邸にはですね。見たことはないですけど、何かそういうのが貯蔵されていたとは噂は聞いたことがありますけど、ただ貯蔵量であるとか、品質であるとかは、たぶん昔に比べればかなり予算の削減で厳しくなっていたとは思いますが。一方でその国では日本ですからね、大使館はですね。そこでは日本を表現できない世界ですから。その辺は非常に難しいところがありますけど、さっき申し上げましたように、一世代前、当時私が行った時の大使ぐらいの人たちが若かりし頃は、たぶん本当にすごかったんだと思いますよ。海外に赴任すると、家が建つとか貯金がすごいという話を先輩方がしていたという話は聞いたことがありますから。それはたぶん現実にあったんでしょうね。

久保田：医者も昔バブルの時は接待がすごかった

らしいですから：。

池田：私の時はそういうのはあまりなかったですけど。

武田：オーストラリアの話だけど、オーストラリアは羊毛の国でしょう？羊ですか？

池田：ああ、羊：、食べはしますね。

武田：山之口の製糸工場にオーストラリアからそのまま毛が入ってくるって。都城志布志道路ができたら、割りといろんな燃費とか良くなるってね。刈ったそのものが山之口に入ってきているんですよ。糸まで紡ぐんですよ。工場を全部集約して。四箇所ぐらいあったんですよ。都城が一番立地状況がいいということで山之口に集約して。オーストラリアとどんな都合で近いのか知らないけど、船で来るんでしょうかね。

池田：志布志港に入っているんじゃないですかね。

武田：志布志からここまでがちょっと何とかかかるとか言っていましたね(笑)。

池田：都城志布志道路、頑張ります(笑)。

武田：あれは何という製糸工場だっけ？

事務局：東亜紡織という工場です。

矢野…そこに羊の毛が来て糸を作る…。

武田…それがグンゼとか女性の…。

池田…そういうのになるんですね。

武田…いろんなところに行くわけですね。そのものずばりの毛が来るんだと言って見せていただきますしただね。

池田…志布志港はたぶんそういうのが入って来ていますよね。オーストラリアとかからも入って来ているので。でも、本当にそういう意味では都城志布志道路を早く繋げないと。今、いろんな取り組みをして、出来るだけ前に進めようとしているので…。

ここ一、二年の動いている状況を民間の方々を見ていて、物流とかあいう人たちの動きが非常に有り難くてですね、都城にですね。高木のインターのところに高木工業団地があるじゃないですか。あそこは私が就任した時に四区画空いていたんですよ。今、三区画埋まって、あと一区画、インターに上がって行く時に左側にちょっと広い所が一箇所あるんですけど、そこだけが空いていて、あとは全部埋まっていますね。

久保田…あの辺り、いっぱい建ってますよね。

池田…ヨコレイの大きい冷凍庫が建ってます。

榎原…企業は県外からですか？

池田…県外と県内もありますけど来てくれています、この間、ある住宅メーカーの方が来たんですけど、有り難いことに、都城が今一番忙しいと。住宅もそうだし、店舗みたいなのもですね。実際は捌けないんだと言っていました。待ってもらっている。だから宮崎支社長は二日に一回は都城に来ていられるですとおっしゃっていて、それは有り難いことなんですけど、民間の方々というのはちょっとインフラが動き出したとか、そういうのにはアンテナを常に張っていらっしゃるので、そういうことをきちんとやれば寄って来てくれるという思いでやっていますけどね。

福島…ちょっと全然関係ないですけど、ドン・キホーテが来るじゃないですか？

池田…来るといふ噂は聞いていますけど(笑)。

福島…ケンタッキーフライドチキンの隣の…。

矢野…あそこ今壊していたもんね。何が出来ているんだらうって思っています…。

福島…県の認可が下りたと言っていて、この間書類が出て…。

矢野…ドン・キホーテなの？ステーキのドンキ…あっちのドンキじゃなくて(笑)？

榎原…ケンタッキーって…。

福島…柳田食品の…。

池田…はいから亭の手前ですかね。今、更地になりました。

福島…一階が店舗で二階が駐車場で認可が下りた。来年の三月オープン。

矢野…その話、本当だったんだね。

福島…本当だったみたいですね。びっくりドンキーかドン・キホーテかと。

矢野…確かに都北のほうでGUも出来ているし、結構動いていますね。

池田…もしそうなら、そういう動きは本当に有り難いなと思うんですけど。

* * *

榎原…志比田も結構人口が増えてますよね。

池田…志比田も増えていきますかね…。小松原ですね。いろいろ見ると、市内で伸び率とかで言うと、たぶん祝吉と横市ですね。西小とかあの辺はまだ伸びていますし。あと、上長飯ですね。上長

飯小学校区、一万城とか、あっちが伸びているよな…。

矢野…あそこら辺が伸びる要因とか…。

池田…東小校区というのは、たぶん泉ヶ丘中学校もちょっと影響しているんじゃないかと思うんですが、泉ヶ丘中校区というのは結構皆さんそういうのはあるみたいですね。

矢野…祝吉はわかるんですよ。あそこは郡元が区画整理が全部きれいになって、まだ空き地がありますからね。僕も郡元に住んでいるんだけど、交差点で信号待ちするのがすごく長くなりましたよ。今までは普通に走っていたのが、一回待たないといけない、車が多すぎて。実感していますね、祝吉、郡元、あの辺が多いというのは。

池田…例えば高崎とかいろんな所で私も話を聞くとよく言われるのは、お父さん、お母さんは高崎に住んでいるんだけど、息子さんたちは中間地点に家を建てるのかですね。実家にも行きやすいし、職場にも行きやすい、例えばそれが沖水であったりとかそういうのがあるみたいです。

武田…日豊線でだいぶ遮断されている、昔からそうだった。あっちは高架線だったでしょう。高

架線にすると、少しは解消される。この千町通りは、昔は遮断機だったですよ、下に。そこに専売公社があったでしょう。三本引き込み線がありましたから。あの頃はたばこが流行っていましたよ。その遮断機が三十分ぐらい開かなかったです。国立病院に行く人なんか三十分待ったんですよ。

矢野…専売公社の土地って、あれは何なんですかね。

池田…あの中、今、太陽光がたぶん敷き詰められていると思いますよ。

矢野…至る所太陽光だらけですね。もったいないですね…。

榎原…あの向かい側…、広い所でしょう？

矢野…そうそう。

榎原…トタンか何かで覆われている…。田舎で作ればいいのにね。あんな幹線道路沿いに。

矢野…使い道がないんだろうな。

高城の工業団地って？

池田…インター工業団地ですね。高城高校の横の大井手地区と、10号線沿いの穂満坊地区。大井手の方はもう造成が終わったんですけど、コスモ



都城市長に就任（平成24年11月）

ス薬品の物流センターがもう入るということで、二百五十とか三百ぐらい雇用だということ、これはもう決まったんですけど、10号線沿いが今まだ造成中で、これは途中なんですけど、ただこちらもう引き合いはあります。

矢野…あるんですね。さっき言われたけど高木はずっと空いていましたよね。

池田…だから私としては本当に有り難い限りで、どういう要因が…、当然、アベノミクスの心理的な要因もあるでしょうし、いろんな要因が重なっていると思いますけど、さっき言ったように、例えばインフラ、都城志布志道路の見通しを出来る

だけ早く我々として出せば、もっとたぶん、逆に寄って来ると。こっちが誘致しなくても寄って来てくれるし、民間はそういう意味では早いからです

ね、察知能力と動きがですね。私としては工業団地は工業団地としてきちんと整備しないといけないですけど、後、インフラ整備ですね、そこが出来なくても、例えばいつぐらいまでに出来

とか、そういう見通しが少し見えてくると、もっとそれを見越してみんな寄って来るということがあると思うので、そこはしっかりやらないといけないと思いますけどね。何とかしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

福島：市長になろうと思った最初のきっかけってなんですか？

池田：ちょうど副市長をやっていたので、あの時に都城の方々といろいろ知合う機会をいただいたんですけど、要は都城の内情を知っている中で、政策としてはいい政策、悪い政策は当然ありますけど、大きな都城が向かっている方向性は正しいんだろうなと思っていた中で、その方向性と真逆の、また昔に戻るといような感じがありましたので、それはやはり私としてはふるさと

を見過ごせないというところがあった。これ以上でもこれ以下でもないですね。

福島：今、お話を伺うと、パワフルにしてい

池田：少しでも都城が良くなってくればいいと思っ

策は当然やっていかないとはいけないし、問題があるということであればそれは替えていかないと

武田：これは先生が一番最初、市長選の時

池田：市長選の時に作らせていただいたリーフレットです。

武田：これに七つの約束と書いてあるんですけど、今日のあれにも七つの約束がありましたけど、昔、七つの誓いというのがありましたよね。ちょっ

とニュアンスが違っただけで、よく分かりました。もっとこれよりも詳しく今日のパンフレットに書いてあるんですね。

池田：今、七つの約束で、市民の方々と約束した、どっちかという大項目的な話を書いてあるんですけど、その七つの約束と

矢野：今日は時間となりました。

久保田：今日はお忙しいところ本当にありがと

ございました。短い時間で、第二弾が欲しいぐらいですが(笑)。

池 田：それであれば、例えば夜でも…。先生方は昼間はお忙しいのです。

矢 野：医師会病院が出来たあたりに、また夜にお願い出来たら…。

久保田：明るい都城がちょっと垣間見えたので、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。今日はどうもありがとうございました。



編集部

福	檜	久	武	矢
島	原	保	田	野
義	進	田	信	博
隆	一	秀	紀	美
	郎	紀	豊	